

平氏と高松

今年のNHK大河ドラマは「平清盛」です。清盛の時代に栄華を極めた平氏と高松のつながりと言え
ば、源平合戦屋島の戦いがすぐに挙げられますが、市内にはその他にも、^{ゆかり}縁の地や興味を引く話が残
されています。

その一つが仏生山町にある平池の話です。この池は1178年、平清盛の命令を受けた^{あわのみんぶ たぐち}阿波民部 田口
^{しげよし}成良によって築造されたといわれています。そして、そのときに人柱になった少女の「いわざらこざら」
(言わなければよかった、来なければよかった、の意)という伝承が残っていて、池のほとりに建つ「乙
女像」がやるせない物悲しさを今に伝えています。

また、香川町東谷地区の^{ぎ おうやま}祇王山の麓にある専光寺の門前付近で、清盛が寵愛した白拍子の^{ぎ おう}祇王とその
^{ぎによ}妹祇女が、清盛から逃れて一時暮らしていたという伝説もあるそうです。(注) ちなみに、この地に近
い香川町東谷には、江戸時代から180年以上の歴史を誇る「祇園座」という農村歌舞伎の一座が残さ
れていますが、この名は、朝夕仰ぐ祇王山にちなんで名付けられたとのこと。 「祇園座」は、芸能
をよしとした祇王・祇女姉妹が隠棲した地にふさわしく、今もその伝統を守り、活発に活動が続けられ
ています。

1181年に清盛が没すると、「おごれる人も久しからず」と語られるままに、平氏は落ちぶれてい
きます。1183年に戦いに敗れ都落ちした平氏は、九州に移動し、その後兵力を整えて屋島に滞在、
牟礼町六万寺に天皇の行在所を置き、京都凱旋に備えます。その時、幼帝安德天皇を慰めるために披露
されたのが、現在も六万寺に伝わる「田井の子供神相撲」であるといわれています。

その後はご承知のとおり。一の谷の戦いから屋島の戦いを経て、最後の壇ノ浦の戦いで平氏は滅亡し
ます。

ところで、平氏が注目を集めるこの機に、平家物語の名場面にもなっている名場面にもなっている「屋
島・檀ノ浦」の魅力を広く発信、PRしようと、11月に「現代源平屋島合戦絵巻」というイベントを
計画しています。瀬戸内国際芸術祭のプレイベントとして位置づけ、多くの市民の参加を得て、アート
や音楽で盛り上げたいと考えています。

(注) 「讃岐の風土記 by 出来屋」

<http://dekiya.blog57.fc2.com/>